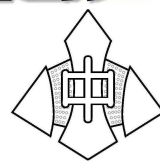


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年9月 3日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

男子は見事7位入賞！女子も9位の力走 郡山市中学校駅伝競走大会

9月2日（木）、開成山公園周回コースにおいて「第64回（女子は第36回）郡山市中学校駅伝競走大会」が開催されました。天気が心配されましたが、時折小雨が降る程度でした。今年度も開閉会式なし、無観客、スタート時間の繰り上げなど、徹底した感染症対策のもとでの開催となりました。

女子は5区間（1・5区が3km、他は2km）で9時30分にスタートしました。激戦区の1区では上野さんが昨年度のリベンジを果たす粘りの走りを見せ、2区荒川さんの力走で好位置でタスキを繋げました。3区大原さん、4区工藤さん、5区大塚さんも粘り強く走り抜きました。結果は第9位。残念ながら入賞にはもう一步届きませんでしたが、本当によく頑張りました。1・2年生が多いので、来年度以降の飛躍が大いに期待できます。

男子は6区間（1区間3km）で10時50分にスタートしました。激戦区の1区は佐藤君が粘りの走りを見せ、2区菅野君と3区宗像君の3年生が順位を上位に引き上げ、4区児島君、5区渡辺君が繋ぎ、最終6区阿部君がその勢いをキープする粘り強い走りでもゴールテープをきりました。そして、見事第7位入賞を果たすことができました。3年生主体のチーム編成で、3年生がレースをよく牽引してくれました。

夏休みも朝早くから、自分が所属する部活動や受験勉強などとの両立を図りながら走り続けてきた生徒たちです。駅伝競技は、何と言っても1本のタスキを繋いでいくところに醍醐味があります。選手はもちろん、補欠やサポートの生徒も全員の心を一つにして、1本のタスキに全員の想いを込めた熱い走り、最後まであきらめない粘り強い走りを見せてくれました。“練習は裏切らない”と言われますが、一人一人がここまで積み重ねてきたものを“自分の力”に変えることができたのではないかと思います。

今大会で部活動引退となる3年生、本当にご苦労さまでした。そして、1・2年生は今回の経験を来年度にぜひ生かしてください。男女ダブル入賞、さらには県大会出場などの高みを目指してほしいと思います。最後になりますが、今回も観戦は叶いませんでしたが、温かいご支援をいただきました保護者の皆様にも感謝申し上げます。

選手、補欠・サポートメンバー

【男子】1区：佐藤隆二③、2区：菅野優③、3区：宗像颯翔③、4区：児島潤②、5区：渡辺宇宙②
6区：阿部康生③、補欠・サポート：蓮田翔空③、中野蓮②、津守隆成①、沼田拓実②
下重心杜②、本田有摩②、三谷大輝①、大越晴琉①

【女子】1区：上野彩美③、2区：荒川心結②、3区：大原寧々②、4区：工藤楓奈①、5区：大塚奏②
補欠・サポート：柄澤恵恋③、古川明花③、小室碧①、伊東さくら③



上野さん



佐藤君



宗像君



菅野君



阿部君



補欠・サポートメンバーも共に戦う姿勢を見せてくれました！

自分の想いを英語にのせて…郡山市中学校英語弁論大会

8月27日（金）には、郡山市中央公民館多目的ホールにて、「第69回郡山市中学校英語弁論大会」が開催されました。暗唱と創作の部を分けて実施し、発表が終わった生徒は速やかに帰校する、開閉会式や表彰式は実施しないなど、密を回避する感染対策を講じながらの開催でした。



午前の暗唱の部には、3年古泉瑠里さんが出場しました。題材は「Malala Yousafzai ; Education First」（「すべてのこどもたちに教育を」）で、銃撃を受けながらも女性差別を訴え、ノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身の人権活動家マララ・ユスフザイさんの書いた文章です。難しい単語がたくさん出てくる文章ですが、古泉さんは落ち着いた態度で、なめらかな英語のスピーチを披露してくれました。「子ども達が輝く明るい未来のためには、学校と教育が必要なのです」というマララさんの強い主張が伝わってきました。

午後の創作の部には、3年古川雅也君が出場しました。テーマは「I have a dream」（僕には夢がある）でした。祖父との対局からプロの棋士を目指すようになり、プロ棋士の養成機関入会に合格し、プロ棋士の師匠にも巡り会えたこと、技能向上だけでなく人としての生き方も学んでいることなど、とても魅力的な創作文であり、その一語一語に古川君の真直ぐな気持ちが伝わってくるスピーチでした。

古泉さん、古川君には、今まで積み重ねてきたもの、そして、今回の経験を自分のこれからの生かしてほしいと思います。2名ともお疲れさまでした。AETのステイブン先生にもお世話になりました。



かがやくこと、いくつか…

始業式後に受賞報告がありました。

■ 県たなばた展 特選 渡部陽奈子②

金賞 宗像悠生①、松崎結②大原寧々②、宗像一樹③

銀賞 市川梨紗子①、遠藤真菜②、伊藤心羽②、橋本実桜②、石田紗希③

■ 市民体育祭ソフトテニス競技 第3位 鈴木碧・佐藤良菜ペア

3年生らしい進路を見すえたすばらしい発表でした！

第2学期始業式の生徒発表で、3年味戸耀星君の発表が3年生らしいすばらしいものだったので掲載しました。進路や学習だけでなく、学級委員長としての自己の役割に目を向けていることも特筆すべき点です。

今までの夏休みといえば、友だちと遊びへ出かけたり、旅行に行ったりと娯楽に満ち溢れていたものだったが、今年の夏休みは違った。夏休みの初めに三者教育相談があり、第1回実力テストの結果をもとに話し合った。自分の点数を見て愕然とした。第一希望としている高校の合格点数には到底、程遠い点数であったのだ。国語は良かったが、その他の4教科ときたら情けない点数であった。僕は、「この夏休みに挽回する」と心に決めた。3年生の1学期の復習と1・2年生で学習した内容の復習に力を入れた。この話を聞くと、勉強ばかりで大変だったように聞こえるかもしれないが、慣れてしまえばそうでもなく、むしろ「自分は受験生である」という自覚を改めて実感することができた。受験への意識が変わった出来事はこれだけではない。それは第一希望校への体験入学であった。自分が進学したい高校の学校生活や先輩たちの授業風景、過ごし方など、今まで想像できなかったことが、「高校生になる」ということについて、はっきりとイメージすることができたのだ。「受験」という言葉がなお一層現実味を帯びようになった。学習面では、「夏休みの学習を継続させ、引き続き学力の向上を目指す」という2学期の目標にした。



自分の学校での生活面を振り返ると、反省すべきことがある。最上級生・3年生として、きちんと生活できているか、1・2年生の見本となれているか、係活動や委員会活動に責任をもって行動してるか、学級委員長としてみんなのことを考えて行動しているか、考えれば考えるほど反省の念で一杯になる。生活面での2学期の目標は、「まわりにもっと目を向けて、自分からみんなとかかわるようにし、積極的に行動する」にした。2学期といえば、文化祭・合唱コンクール、野外体験学習、修学旅行など、行事がたくさんあるが、学級や学年での話し合いでは、みんなが話し合えるような雰囲気づくりに努め、自ら積極的に取り組んでいきたいと思う。今日から始まる2学期を大事に考え、精一杯頑張りたいと思っている。